

オバマ大統領、K-12 教育におけるコンピュータサイエンス教育の拡大を目指す  
「コンピュータサイエンス・フォー・オール」イニシアティブを立ち上げ（1月30日）

オバマ大統領は1月30日、米国の全生徒に対して学校でコンピュータサイエンス (computer science : CS) を学ぶ機会を提供することを目指したイニシアティブ「コンピュータサイエンス・フォー・オール (Computer Science For All)」の立ち上げを発表した。これからの経済において「新たな基本」として必要な技能とされる CS であるが、プログラミング及びコーディングの授業を幼稚園から高校3年生 (K-12) の教育で提供する州は全体の1/4のみである他、CS 授業が高校卒業単位として認められている州は現在28州のみという。本イニシアティブは、①教員養成、質の高い教材へのアクセス拡大、地域における有効なパートナーシップ構築のために、連邦政府が州に対して40億ドルを助成し、学区に対して1億ドルを直接助成、②CS 教員の支援・研修のために、米国科学財団 (National Science Foundation : NSF) 及び米国コミュニティサービス公社 (Corporation for National and Community Service : CNCS) が1億3,500万ドルを助成、③州知事、市長、教育リーダー、企業 CEO、慈善家、メディア・技術専門家などに対して関与を要請、などを通して、CS 教育拡大に取り組む。また、K-12 教育における CS 拡大のために、NSF 及び CNCS 以外にも、教育省 (Department of Education)、国防総省 (Department of Defense)、及び、商務省 (Department of Commerce) 傘下の米国特許商標局 (Patent and Trademark Office : USPTO) などが資金を拠出する。

The White House, FACT SHEET: President Obama Announces Computer Science for All Initiative  
<https://www.whitehouse.gov/the-press-office/2016/01/30/fact-sheet-president-obama-announces-computer-science-all-initiative-0>